

多世代交流拠点としての「こども食堂」 「コロナの「教訓」を踏まえて」



社会活動家、東京大学先端科学技術研究センター 特任教授
全国こども食堂支援センター・むすびえ理事長

湯浅 誠

皆さんこんにちは。今日はオンラインということで、会場にお集まりいただけなのはちょっと寂しいですが、場所や地域を問わず参加できるという利点もあると思います。こども食堂も基本的には同じで、コロナ禍の大変な状況下で非常に課題がありながら、他方で、ちょっと語弊があるかもしれませんが、良かったと思われることもありませんでした。

今日は「教訓」として、コロナ禍を総括するにはまだ早いかもしれませんが、今年2020年を通じて見えてきたことをお伝えしたいと思います。はじめに、そもそもこども食堂とは何か、そしてこのコロナ禍で何が起り、ここからどんな意味と価値が見いだせるのかという話をしますので、よろしくお願いたします。

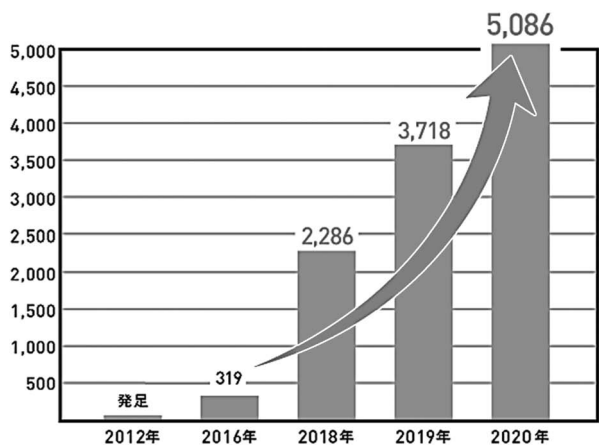
1. ポケモンより有名なこども食堂

理事長からもご挨拶をいただきましたが、こども食堂の数について、去年は約3,700、今年4,000を超える状態になっています。これは、全国の行政サービスとして行われている児童館と同じぐらいの数です（図1）。

そして、こども食堂はこの数年の間に、とても皆さんに親しまれてというか、広がってきました。いくつかの世論調査会社が、データを出していますが、こども食堂について、聞いたことありますか？とたずねると、84%の方が聞いたことがあると答えています^{(*)1}。こども食堂は開始からまだ8年と歴史の浅い取組みですが、84%の人が聞いたことがあるという状態に至っている。これは大変なことだと思います。

ちなみに、アニメキャラクターのポケットモンスター^{(*)2}（ポケモン）の認知度は83%だそうです。

（図1）こども食堂の数の推移



（出典）全国こども食堂支援センター・むすびえ「こども食堂全国箇所数調査2020」（2020年12月公表）

最初聞いた時、こども食堂はポケモンより有名なのだと驚いた覚えがあります。ところが、こども食堂に行ったことがありますか？と聞くと、5%まで落ちます。そういう意味でこども食堂とは多くの方にとって、聞いたこととはあるが、行ったことのない場所なんです。

聞いたこととはあるが行ったことがない場所は、私にもあります。私はイタリアという国に行ったことがあります。そうすると、例えばちよつとテレビで見た、新聞で読んだといった断片的な情報から、イタリアってこんなところかなというイメージを作ったりしますよね。それと同じで、こども食堂も多くの方は行ったことがありませんから、テレビや新聞で見た情報から、きつとこんな場所だろうというイメージを持っていることが多いと思います。ただ、それは、私にとってのイタリアが、必ずしもその実態と同じかどうか微妙なように、こども食堂の実態

(写真) 子どもを真ん中に置いた
多世代交流の地域の居場所



た取組みですが、今ではお寺さんが、地域の交流拠点、地域の人が集う場として始める事例が増えています。写真をよく見ていただくと、右上に僧侶の格好をした人が写っています。

と同じとは限りません。一番多い誤解は「こども食堂は、食べられない子が行くところ」です。

(※1) 株式会社インテージリサーチ「子ども食堂に関する意識調査」

(2020年7～8月、全国の16～79歳の男女1万802人を対象に行われたインターネット調査。2020年11月公表) <https://www.intage-research.co.jp/lab/20201112.pdf>

(※2) 株式会社日本リサーチセンター「第6回NPO全国キャラクター調査」

(2019年10月、全国の15～79歳の男女1200人を対象に行われた、調査員による個別訪問調査。2019年12月公表) による。

<https://www.nrc.co.jp/report/191206.html>

2. こども食堂の「場」

(写真) をご覧ください。このこども食堂は毎月2回開催で、1回に300～400人が集まり、地域のお祭りみたいですが、皆さん親子連れで楽しそうに過ごしておられます。

こども食堂は、子どもたちを真ん中に置き、保護者の皆さん、地域の高齢者の皆さんといった多世代の方が交流する場所として広がってきました。一個人、特に地域の女性たちから始まっ

それから地域住民のつながりづくりを目的に、自治会がこども食堂を始めるほか、事業者、企業、個人飲食店など、担い手が広がってきているのも、ここ数年の特徴です。

こうした場があることで、何が、誰に何が効いているのかというと、一つにはまず地域に効いています。地域を見回すと、地域の場というのが本当に減ったよね？と感じると思います。ご家庭に親戚一同が集まる機会も減りました。子ども会や自治会の活動で、地域がにぎやかになるような機会も減りました。商店街で、地域の方たちがたまっておしゃべりしているようなことも減りました。地方に行くと、本当に人が歩いて見るのを見ることが自体が珍しい。たまに歩いていると思ったら、おばあちゃんが買い物車を押している姿だ、みたいな話をよく聞きます。人々のにぎわう場所の大切さが再認識されたことが、こども食堂が広がっている一因です。

子どもたちは、こども食堂で異なる年齢の人々と遊んだりする体験を通じて、大人や高齢者の人と付き合う経験をしています。三世代同居が減り、高齢者と一緒に暮らしている子どもは多くありません。そうか、高齢者の人たちって立ったり、座ったりするのが結構大変なんだとか、大きい声を出さないと聞こえない人がいるんだといったことをリアルに体験できる場です。子どもにとって、知らない大人はちよつと怖い存在ですが、関わってみるとこの人優しい人なんだといった経験をいくつか積んでいく中で、社交性、社会性を身に着ける場でもあります。

異なる年齢の子どもたちと遊ぶと、体力が違う子には工夫しないと一緒に遊べないということがわかります。今なら障害を持った子や外国籍の子もいるかもしれません。こども食堂は、そういう子たちとどうすれば一緒に遊べるのか、自分たちで試行錯誤する機会を提供しています。

う場所で、誰かが子どもを見ていてくれて、お母さん同士でしゃべれる。お母さんたちにとって、実はそういう時間と機会がとても大事です。これは「こども食堂あるある」ですが、こども食堂で最後まで帰らなかったのはお母さんたちだと言われています。

そして、地域の高齢者の方たちです。今、お一人暮らし、お二人暮らしの高齢者の方が増えました。地域の中で多様なお付き合いを持っておられる方、そうでない方もいると思います。そういう中で、子どもさんをきっかけに、集まる場を設ける。人が動くときには、言い方はちよつと微妙ですが、何か言い訳が必要です。子どもが待っているから、子どもたちのためにという「しょうがねえなあ」と言いながらも動ける。なかなか自分のためにと言われると、いや、いいよ、大丈夫だよと言いたくなるような人も、子どもたちがいわばきっかけになって

3. 沢山のひと知り合えるこども食堂

私の鹿児島島の友人は、県内で初めてこども食堂を始めました。自分の娘が3歳の時、あまりにも人見知りか激しいので、いろんな人と関わる機会を提供するためにこども食堂を始めたそうです。最初はもう、お母ちゃん早く帰ろうよ、みたいな感じで、自分の足にしがみついて大変だったといいます。ところが、月日を追うごとにどんどん人に慣れ、半年もたつたら、うちの子どこ行つた？と思つたら、向こうでおじちゃんに遊んでもらっているような、社会性の高い子になりました。そういうことがこども食堂、多世代交流の現場では日常的に起こります。

また、親御さん、特にお母さんたちは子育てが大変です。そういう中でホッとできる時間が一日の中になかなかない、ひと月の中になく、下手したら、一年中ない。そういう時、こうい

くされると、集まりやすくなつたりします。地域の高齢者の方たちも子どもたちと関わる中で、やりがいを持つたり、出番があつたりします。

これも私が新潟で見た光景ですが、子どもが「おじいちゃん卓球やろうよ」と寄ってきたのです。その子にとって、あの人は卓球と一緒にやってくれる人だと認定されているわけです。「しょうがねえなあ」と言いながらおじいちゃんの顔はうれしそうでした。ああいう場面があつちこつちで起こるといえるのは、高齢者の方にとつても良いことではないかと思えます。

子どもの中には課題を抱えている子がいます。孤食だけでなく、貧困家庭の子もいます。そういう子たちも皆に混じって参加しているわけですが、何か気づいた時にはできることをしたいと思つている運営者の人たちも沢山います。

福岡県のこども食堂に行つた時、運営者の方から「コロッケ事件」があつたと聞きました。

コロッセを出したら、小学校5年生の男の子が「これ何?」と言った。この子は小学校5年生になるまで、コロッセを見たことも食べたこともなかったんだと気付いたそうです。そしてその方たちは「次はメンチカツを作ってみよう」と思っているんだよね」と言っていました。コロッセを食べたことがないなら、メンチカツはどうだろうか?というふうにして、食の体験を増やしていけたらいいなということです。

あるいは、鹿児島のことでも食堂へ行った時は、私と同じテーブルに小学校2年生の子がいて、今日初めて来たと言っていました。へえ、何で?と聞いたら、お母ちゃんが行って来いって言ったというのです。そうなんだ…と答えながら、私の頭はぐるぐる回っています。

お母ちゃんが「行って来い」と言った、どういう意味だろう?まあ、楽しそうな場所だから、まず、子どもに行かせて見て、自分のような大

す。

子ども食堂の参加者は20〜30人、多いところでも300〜400人です。そういう意味では、学校ほど網羅的に、全ての市民に対して、全てのサービスを提供できる場ではありません。しかし学校ではなかなかできないこともやっています。この子は家でコロッセを食べたことがない、というような家庭環境を垣間見ることは学校の先生にもあるはずですが、だからといって学校の先生が翌月の給食のメニューを変えられるかといったら、変えられないですよ。子ども食堂なら、今回はメンチカツを作ってみるか、とできるわけです。お家でお誕生会やってもらったことがないんだ、じゃあ今度みんなで盛大にやるか。家族旅行に連れて行ってもらったことがないんだ、じゃあ今度みんなで海水浴に行くか。学校の先生が修学旅行をもう一回増やせるかと言ったら、できないですよ。子ども

人も行けるのかどうか、誰が来ているのかちよつと見てきて、という感じで行かせたのかもしれない。食事を作るのが面倒で、あそこで何か食べさせてくれるのなら行っておいで、と行かせたのかもしれない。それが毎日なのかもしれない…分からないですよ。相手は小学校2年生、根掘り葉掘り聞くわけにもいかない。子ども食堂の人たちはどうするのか?と思っていたら、その子ににぎりを10個ぐらい持たせて帰っていました。余ったから持って帰ってくれとうれいと言って負担に感じさせないようにしながら、子どもの向こうにいるご家庭に、私たちはあなた達のこともちよつと気にしていますよというメッセージを投げている。子ども食堂の人は、おせっかいをしているだけだといいますが、そういうさげなことを日々行っている。なかなかできることではないと思います。それが子ども食堂という場所です。

食堂の運営者は、たまたま関わった子どもやご家庭に対して、自分たちのできることを臨機応変に、柔軟にやれる。そこに強みがあります。

子ども食堂で一番多く聞く言葉は何だと思えますか?食事がおいしいとか、うちで作らなくていいので助かるとかは、もちろんたくさん聞きます。しかし一番多いのは、子どもも大人も、ここでは沢山のひとと知り合えるということです。これは子ども食堂の特徴になっています。

4. コロナ禍の子ども食堂

そして、コロナ禍が起きました。子ども食堂は「3密」な場所です。これではなかなか開けないよね、ということになり、子ども食堂の開催、一堂に会する場所を作ることに限っては皆さん苦戦されています。

私たちは今まで、4月、6月、9月の3回全国アンケートを取っています。^(*)4月の調査では、

皆が一堂に会する場所としての居場所を開けているのは、1割しかありませんでした。緊急事態宣言下でしたからね。ところが、お弁当を配布している人たちが2割、そして食材を配っている人たちが2割いました。さらに食材を宅急便などで送っている人たちまで入れると46%でした(図2)。このなかでも頑張つて居場所を開いているという人が1割いましたから、これを足すと過半数になった。これはすごいことだと思います。

(*3) 全国子ども食堂支援センター・むすびえ、子ども食堂ネットワークが実施した「子ども食堂の現状&困りごとアンケート」の調査結果は、以下を閲覧可能。

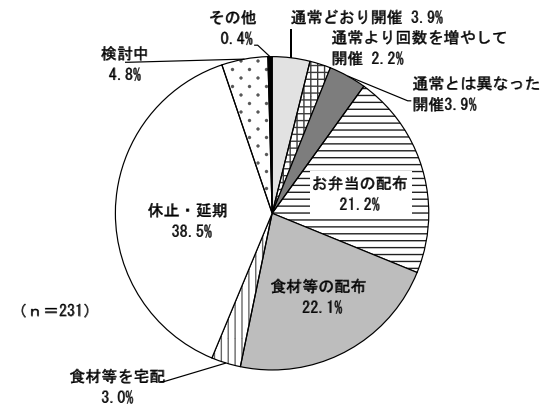
- 第1回(4月) https://musubi.or.jp/wp-content/uploads/2020/04/musubi_Q_sheet_0423.pdf
- 第2回(9月) https://musubi.or.jp/wp-content/uploads/2020/07/musubi_Q2_sheet_0713.pdf
- 第3回(9月) https://musubi.or.jp/wp-content/uploads/2020/10/musubi_Q3_sheet_1020_02.pdf

今日特にお話したいことは、コロナ禍から見えてきた居場所の価値と本質についてです。

緊急事態宣言下、世の中のほぼ全てが止まりました。学校もやっていない、イベントは100%中止。世の中に波が立たないような状態で、皆ステイホーム。未だ記憶に新しいです。そんな中でも、子ども食堂の人たちの半分は動いていました。変だと思いませんか?例えば、地域に自主防災組織がありますが、緊急事態宣言下で、何か活動をされたでしょうか。私はごく例外的に活動された方たちがいるのを知っていますが、基本的には動いていなかった。コロナは自然災害ではないからです。自然災害だったら、自分達の出番だ。しかし自然災害ではないから、自分達の出番ではない。課題別に考えれば、おかしなことは何もありません。

課題別対応組織の代表例はお医者さんです。お医者さんは、例えば「眠れない」と訴える人に対して、医学的に治療が必要か否かを、問診や診察を通じて分析します。そして治療が必要

(図2) コロナ禍の子ども食堂
緊急事態宣言下でも46%がフードパントリー(食材・弁当配布)等を実施



(出典) 全国子ども食堂支援センター・むすびえ、子ども食堂ネットワーク「子ども食堂の現状&困りごとアンケート結果」(2020年4月) (*3)

であれば自分の出番、そうでなければ自分の出番ではない。課題別に対応するところになります。子ども食堂もそうなくても全くおかしくなかった。今まで一堂に会する場所を開くのが、子ども食堂主催者の皆さんのミッションだったわけです。それが出来なくなったら、また場を開けるようにまでさようなら…で良かったはずです。そうやって当然ですが、そうならなかった。私の知り合いは、公民館が閉鎖され、子ども食堂が開けなくなりました。どうしたかという、地元のスーパリーの店長と交渉し、駐車場を借りて、即席のドライブスルーでお弁当配布を始めました。交渉や準備は結構大変だったと思います。ここまでするか?という感じですね。食材やお弁当の配布ができない団体は、文通をしました。つまりこの方たちは、居場所が開けなければ残念でした…ではなく、他の方法はないのか?と考え、とにかくつながり続けるた

めに何でもやったのです。ここに居場所の本質の一つが現れています。

先ほど、課題別対応の代表格はお医者さんで、課題がある時につながって、解決したら離れる人だといいました。健康でも病院に行っていたら問題です。課題別対応は必ずそうなります。

しかし、子ども食堂の人たちはそうではない。つながり続けるためには何でもやる人たちの代表格は誰でしょう？家族であり、友人であり、ご近所さんです。本当の友達というのは、病気の時も健康な時も、調子のいい時も悪い時もつながり続ける。課題別にはみません。眠れないといわれたらどんな状態かともかく、大変だねと共感しますよね？これと同じです。

子ども食堂の人たちは、むしろ家族や友人に並ぶ人たちだということです。お医者さんの隣に並べると分からなくなります。なので、課題別の発想で見ようとしない方がいいと思います。

しません。家族や友人、ご近所の人たちとの縁です。そうした人たちが、周りにいなくなってきたことによって、孤独や孤立、生きづらさを感じる人が少なくなってきたわけです。子ども食堂や地域の居場所の皆さんは、そこに直接働きかけている人たちということです。

ここからもたらされることは「生きづらさ」という問題です。生きづらさは、仕事がある人より、ない人の方が持ちやすいです。お金がある人よりは、ない人の方が持ちやすいです。しかし、お金があつて仕事があれば、生きづらさを感じないかという、そうではありません。

これはなかなか理解していただくのが大変だったのですが、この数年、ある大ヒットドラマのおかげで、とても話しやすくなりました。『逃げるは恥だが役に立つ』^{(*)5}です。ドラマの男性主人公は、星野源さん演じる平匡^{ひらまなむ}です。彼はIT企業勤務で、そこそこのいいマンションに住

つながり続けるためには、何でもやりますから。文通団体なのか、食材配布団体なのか、食堂なのか、と聞かれてもわかりません。状況に応じて形を変えていきますから。これが一番何に効いているかといいますと、無縁社会です。

5. 無縁社会が誘発する「生きづらさ」への処方箋とこと

皆さん「無縁社会」という言葉がいつ生まれ
たか、覚えていらつしやいますか？NHKスベ
シヤル『無縁社会…無縁死』三万二千人の衝撃』
がきっかけで、日本社会に広まっていきました。
放送は2010年1月、ちょうど10年前です。^{(*)6}
以降、私たちの社会はどうも無縁社会らしいと
いうことになっていきました。

無縁社会とは、何がない社会でしょうか。縁
とは、どんな縁でしょうか。お医者さんとの縁
ですか？無縁社会はお医者さんが増えても解決

み、お金もあるようで家政婦を雇おうとします。
そこで、新垣結衣さん演じる女性主人公・みく
りと出会います。平匡はお金も仕事も住居もあ
るのですが、なぜか自分に一生関わってくれる
人なんて現れるわけがないと思ひ込んでいます。
そこに彼の生きづらさがある。

これは客観的には何の形もとっていません。
役所の人は仕事をして収入もあり、家もある人
に手出しができません。役所の人が平匡の家に
行って、ちょっとあなた生きづらそうだから、
何とかしてあげましょうといったら、余計なお
世話という感じですね。役所の人の出番は、彼
の生きづらさが、こじれにこじれたときです。
彼は朝起きられなくなり、仕事でミスを連発し
てしまうかもしれない。失業したら「就労のご
紹介をしましょう」と。お金が無くなってしま
たら「生活困窮ですね」と。住居まで失ってしま
たら「住宅を一緒に探しましょう」と。主観的

な生きづらさが客観的な形をとるまでこじれてしまった時、役所の人は出てきます。しかし、この生きづらさが主観的なものにとどまっているとき、役所の人は手出しができません。

ここに直接働きかけているのが、こども食堂や地域の居場所の皆さんです。子どもを真ん中に置いた多世代交流の居場所は、生きづらさを感じる人にも直接働きかけながら、無縁社会に抗している。行政には決してできない、民間のオリジナルな取組みです。そこに強みがあることが、コロナ禍ではつきりしたと思います。

こども食堂の人が全員ということがありません。「うちは食べるだけの場所じゃないですよ」。学習支援を行う団体の皆さんもほぼ同じことをいいます。「うちは勉強を教えるだけの場所じゃないですよ」と。「だけじゃない」とは「つながり続けようとする」ということです。そこに居場所が持つ、本質的な意味と価値があるのです。

やっているぞ、と通報する。それが正義ですよ。でも、こども食堂に来る子どもさんからは「次いつやるの?」と言われ、活動している人たちにとっては、「あの家庭、この子どもが心配でしようがない」と、やらざるを得ないなかでやっているのです。双方にギャップが生まれますので、こども食堂は通報されてしまいます。

他方でいいこともありました。緊急事態宣言下、コロナ禍で大変な家庭や子どもたちがいるはずだが、自分は彼らと繋がっていない。誰を支えれば彼らを支えることが出来るのか?と、世の中を見渡した人たちがいる。その時、波の立たないところで動いているこども食堂に注目した人たちがいました。

例えばイオングループでは全8600店舗に募金箱を置きました。^(*6)元SMAPの3人組「新しい地図」は【LOVE POCKET FUND】(愛のポケット基金)を立ち上げました。^(*7)私たちは

(*4) NHK「無縁社会プロジェクト」取材班編著「無縁社会…無縁死、三万二千人の衝撃」文藝春秋・2010年11月発行。同年、第58回菊池寛賞受賞。

(*5) 2016年10、12月放送の連続ドラマ。原作は海野つなみの同名漫画(講談社)。TBSテレビウェブサイトhttps://www.tbs.co.jp/NIGHAUL_tbs/

6. 誰を支えればよいのか

そして今年、私たちは「つながり」という言葉がキーワードとなる一年を過ごしました。これは非常時の特徴です。東日本大震災の時は「絆」でした。物理的につながれないからこそ、精神的、社会的にはつながろうという意味です。

世の中の多くが止まっていた緊急事態宣言下でも、こども食堂の人たちは動いていました。波のないところに波を起こすことになる、目立ちますよね。こども食堂は、人によつては不要不急の会食と同じに見えます。よりにもよつてこの時期に、わざわざ人の集まる場を作るなんて何考えているんだ?とんでもないことを

これらから助成を受け、全国のこども食堂の活動を支援するために使わせていただきました。

国際的に活躍するサッカー選手・長友佑都なかともしゆうとさんは、コロナ禍で苦しみひとり親家庭のためにクラウドファンディングを行いました。^(*8)コピーライターの糸井重里さん、ネット上で商品を売

買する仕組みを作ったメルカリさんなども、こども食堂を応援してくれました。一方では通報されながらも、他方では見ていてくれる人たちがいた。「捨てる神あれば拾う神あり」とはこのことです。

こども食堂を応援する声が高まったのは私たちむすびえが頑張ったからではありません。こども食堂の人たちが、どんなときでもあきらめずにつながり続けようとしたからです。それが大きな一点目です。

(*6) イオン株式会社とむすびえが協働した支援事業「イオンこども食堂応援団」の一環で、2020年12月～2021年1月に行われた「全国子ども食堂応援募金」。

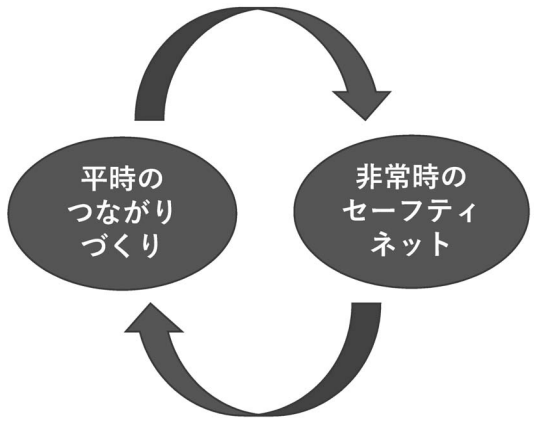
- イオン株式会社ウェブサイトを
https://www.aeon.info/wp-content/uploads/news/pdf/2021/02/210222R_2_1.pdf
- (*7) <https://owe-pocket-fund.jp/>
- (*8) <https://readyfor.jp/projects/save-singleparent>
- (*9) 「ほほ田刊」インターネット新聞「ウェブサイトを
<https://www.1101.com/n/s/donation2020/2020-05-30.html>
株式会社メルカリウェブサイトを
https://p-news.mercari.com/2020/06/05/thankyou_share_smiles/?fbclid=IwAR0ARER5s4jk-EpSQOzm8E7LZ8CqPHnIB-ZUHN8KG00g69z6g8d_6uBJk

7. アフターがブレでもある「災間」＝新しい日常

コロナの「教訓」として、もう一点お話ししたいのは、災害に強い地域づくりの視点です。平時も非常時もつながり続けることは、災害が日常茶飯事になった日本社会にとって、とても大事なことだと思います。

平時にはみんなの集まる場を作って、地域の交流を盛んにする。いわば、つながりのアクセラを踏んでいるわけです。そして非常時には、

(図3) 災害に強い地域づくりの視点
 平時も非常時もつながり続ける



(出典) 報告者作成

大変な人たちがより大変にならないよう、食材やお弁当を配ったり、相談にのったり、生活を支える側に回る。いわば生活が壊れていく人のブレーキになる。アクセルとブレーキの両方を同じ人たちが踏んでいる。そして、これが循環していくことが望ましいです(図3)。

私たちはここ数年、毎年のように大豪雨を経験しています。昔の常識なら50年に一度のレベルのものが毎年来ています。つまり、昔の常識は通用しなくなっただけのことです。このコロナもいつか終わるでしょうが、次に来るのは地震、水害、豪雨、新しいウイルスかもしれない。私たちはこう考えることに慣れてきました。

長い日常があつて、何かの拍子にドカンと非常日常が来る。伊勢湾台風、阪神大震災、そして東日本大震災がそうでした。今の私たちの経験を虚心坦懐に見れば、毎年、非日常と日常が、細かく折り重なるように起こっている。

東日本大震災後の社会を「災間」と名付けた人がいます。私たちの日常は災害と災害の間にあるのかもしれない。これからは災間の思想が必要ではないかというお話です。私はコロナ禍で、その言葉を改めて思い出しました。

(*11) 「災間」に関する著作としては、仁平典宏「災害の思考」赤坂憲雄・小熊英二「二辺境」からはじまる…東京／東北論 明石書店・2012年5月発行所収、中西進・磯田道史「災害と生きる日本人」潮出版社・2019年3月発行、小田嶋隆・武田砂鉄「災間の唄」サイゾー・2020年10月発行、などが挙げられる。

非常時に出勤する災害専門支援団体は必要です。しかし、地域の中で平時も非常時も動き、つながり続けようとする人たちの役割は、ますます高まっています。このことが今回見えてきた、大きな二点目です。

実はその視点で見ると、こども食堂は災害の度に増えていました。年表らしきものを作ってみました(表1)。2016年には未だ記憶に新しい熊本地震をきっかけに、県下のこども食

(表1) 災害の度に増えるこども食堂

年代	年	事象	こども食堂	箇所数
2010年代	2011	東日本大震災		
	2012		最初のこども食堂誕生	1箇所
	2013	「子供の貧困対策の推進に関する法律」制定・生活困窮者自立支援法制定		
	2014			
	2015		報道量ふえる	
	2016	熊本震災	熊本でこども食堂が増える	319箇所
	2017			
	2018	西日本豪雨水害	愛媛県宇和島市で1年間に13箇所のこども食堂が誕生	2286箇所
	2019	台風15号19号被害	宮城・福島・栃木等で災害支援拠点として活動	3718箇所
2020年代	2020	コロナショック	フードパントリー等で困難家庭支援	
	2021~			2万超へ
	2030	SDGsゴール		

(出典) 報告者作成

堂が増えました。2018年には西日本豪雨が
ありました。闘牛で有名な愛媛県宇和島市には、
水害が起こるまで一軒もこども食堂がありません
でした。ところがその後、一年間で13か所に
増えました。今はほぼ全ての小学校区にこども
食堂があります。災害とこども食堂は何か関係
あるの？ただの偶然じゃないの？と思うかもし
れませんが、そうではないです。

例えば大災害では、停電や断水が起こります。
自衛隊の給水車が来て、マンションの3階で暮
らす80代のおばあちゃんが水をもらいに行く
と、自衛隊員が水を汲んでくれます。そこまでは
いい。この人は水を持って帰れるでしょうか？
持って帰れません。水って、やたら重いんです
よ。自衛隊員が一軒一軒届けてくれますか？何
十万人いても足りません。遠くの親戚は駆けつ
けてくれますか？そういう人もいるかもしれな
いけれど、多くはなさそうですね。

つまり、水を家に運ぶのを手伝ってくれる人
が近所にいるかどうかは死活問題で、平時のつ
ながりの大事さを痛感するのが非常時なのです。
人間には常に二つの気持ちがあります。つな
がりは大事だと思ふ側面と、面倒くさいと思ふ
側面と、両方あります。普段はどちらかという
と、面倒くさい気持ちの方が勝ってしまったら
する。しかし非常時というのは、大事だとい
う気持ちが高まる時です。

こういうことが今年日本全国で起こりました。
例えば、7月に熊本県球磨村や人吉市で水害が
発生した日のうちに支援活動が開始され、今で
も続いている。宇和島市では、食材配布、フー
ドパントリーがコロナ禍で大変なご家庭を支え
ました。非常時が平時のつながりを生み出し、
平時のつながりがまた非常時に活躍するよう
なサイクルを生み出してきたのです。

私はこれを全国展開すべき時ではないかと思

います。今年は全国で同時に非常時を経験して
いるからです。私はこの夏、帰省しませんでした。
私の母は79歳で、去年要介護になりました。
調子が悪いからこそ、重篤化したら大変です。
でも、うちの母ちゃん、めったなことでは私に
連絡してきません。あの子も忙しいのだからと
か気を使ってみたくて、本当に心配です。

私にとってちょっとした安心材料は、母のご
近所さんの存在です。その人と私は互いの携帯
番号を知っています。母に何かあったらあの人
が受けてくれるだろう、と思うと安心です。同
時に思うのは、母にそういうつながりがあった
ら、本当に助かったということです。

これは今年、全国で多くの人が体験し、感じ
たはずなんです。自分の親の周りにそういう人が見
当たらないという人もいたかもしれません。と
ても心配だったと思います。全国の人たちが、
局地ではなく同時に体験した教訓が活かされる

べきです。それは、近隣の付き合い、近所のつながりといったものが、実は生死を分け、生活に深く影響してくることがあるということ。そして、つながりの大切さ、当たり前のありがたさを多くの人が感じることに、私はくみ取るべきものがあると思います。

私は今肋骨を折っています。普通に歩けるのはありがたいなと感じました。非常時は平時のありがたみを痛感します。普段は先生がいいだの悪いだの、給食がうまいだのまずいだのと言っていた人たちが、日中ずっと子どもを受け入れて、給食まで食べさせてくれる学校の存在は大きかったと思うのと同じです。日本全国の多くの最大公約的な気分を言うと、当たり前はありがたい。そして、これを本当の意味で形にするためには、平時や非常時を貫く色々な人たちのつながりを、アフターコロナになったらきれいなさっぱり忘れるのではなく、今から作っ

宅のダイニングは6畳ぐらいですので大勢は入れず、中高生の居場所にしました。

そして90歳の誕生日を病院で迎えました。大都会の一人暮らしの方の入院生活。大部屋に高齢者が寝っていて、ちょっと薄暗くて、誰もしゃべらず、あまり面会に来る人もいないような、何か寂しいイメージがあると思いますが、この方の入院生活は賑やかでした。こども食堂の皆さんが入れ代わり立ち代わり面会に行き、誕生日には子どもたちが、おばあちゃん早く元気になっってね、みたいな寄せ書きをしました。

ご臨終は91歳、ご自宅で親類縁者だけでなく、こども食堂関係の皆さんが笑顔で見送りました。この方は89歳にして、ご自宅をこども食堂に開放したことで、自身が皆に見送られるようなつながりを作りました。こども食堂や地域の居場所の人たちがつながり続けようとするのは、こういう形で現れます。そして、安心して暮ら

ていくことが大事なのではないかと思えます。平時は多くの人がこぼれにくい地域を作り、それが次の災害に対する備えになる。前者は福祉、後者は防災の話に聞こえます。分けて考える人がいますが、同じことです。それが可能となるような地域と社会を作っていきたい。

今回コロナで明確になったのは、居場所の重要性です。こども食堂だけではなく、高齢の人たちも同じです。居場所で人々がつながり続けようとするところに、私たちが目指すべき地域と社会のこれからの姿を見出したいと思えます。

8. おばあちゃんの家を開放した こども食堂

東京都豊島区にお住まいのおばあちゃんは、89歳の時にご自宅をこども食堂にしました。自宅開放型ですね。89歳で食事を作るのは大変なので、台所に地域の方が来て作りました。ご自

せる地域や社会であるからこそ、色々な人たちが色々なことにチャレンジできる。失敗しても受け入れてくれる人がいる、大丈夫だと思えるような社会になるのではないかと思います。

9. JAの皆さんご期待openJJ

今日はJAの皆さんのお集まりです。この後に事例報告もありますが、皆さんには既に、多くのご支援をこども食堂や地域の居場所にしていただきありがとうございます。

私たちが期待したいことは、本当に多様です。食材等のご支援や、今ですと公民館が使用できないなど、場所に困っている人たちもいますので、場所をご提供いただくのもありがたいです。大事なのは周囲の理解です。通報された話をしました。人によっては、不要不急の会食と同じです。でも「地域にとって大事な場所らしいよ」ということを、JAの皆さんのように、地

域にしっかりとしたプレゼンスを持つ人が言ってくれれば、ああそうだなと思ってくれる人たちが沢山います。地域の理解を広げるために言葉が発していただくのも、とても大きな視点です。

そして、こども食堂をやってみたいと思われている方は、ぜひご自身で運営してみてください。面白いですよ。楽しいです。コロッケ食べたことがない？今度メンチカツ出してみるか…こんな感じで、子どもたちに色々な形で関わられるような場所を作っていただけだと思います。

各地のこども食堂のニーズは様々です。JAさんがやりたいことも様々でしょう。ですから、お互いのニーズがうまくマッチした時に形になるような芽が、既に全国のあちこちで生まれています。それらがさらに広がっていくことで、より多くの人達が、平時にも非常時にもつながり続けられる。人々の根っここのところの安心感を生み出す。そして、日本の地域と社会を元氣

にする。こういう状態をみんな目指せればと思いますので、今後とも引き続きよろしくお願ひします。ありがとうございました。

